

# 「医療的ケア」で研修会

## 県教委 支援学校の教職員対象

県教委は12日、重度障害児らが通う県立特別支援学校4校の教職員を対象に、痰の吸引など「医療的ケア」に関する研修会を、鳥取市江津の県立鳥取養護

学校で開催した。教職員のみを対象に全県で行う研修会は初めてで、医療的ケアの専門家が基礎的な知識や考え方を説明した。昨年5月、県立鳥取

養護学校で看護師の1斉辞職が問題になった際に、医療的ケアに関して教員と看護師間の連携不足が指摘されたことなどを受けて開



医療的ケアに関して教職員らに講演する汐田副院長＝鳥取市の県立鳥取養護学校で

催。これまで各校で研修していたが、来年度からは全体研修も加える方針という。県立総合療育センターの汐田まどか副院長が講演。「痰の吸引な

どの直接的な行為を最小限にするために、姿勢づくりなど呼吸障害への対策や、生徒の状態把握が大切」などと話した。倉吉養護学校と皆生養護学校にインターネット中継され、4校の教職員や希望した保護者ら約150人が参加した。

鳥取養護学校の安本理恵教諭は「痰が出やすい姿勢を促すことや、教員と看護師の日常的な情報交換の重要性を改めて感じた」と話した。【真下信幸】

# 教職員が医療的ケア学ぶ

が委修  
会研 県

教職員らを前に教育を主体とした医療的ケアについて語る汐田副院長(左奥) 12日、鳥取市江津の鳥取養護学校



鳥取県教委は12日、医療的ケアの必要な児童生徒の教育の充実を図るため、教職員研修会を鳥取市江津の鳥取養護学校で開いた。参加者は、ケアの必要な児童生徒に多い呼吸障害をテーマにした講演を通し、教職員と看護師・医師、保護者の連

携や協働の大切さを再認識した。

教職員向けとしては初めて全県対象に開催。倉吉養護学校(倉吉市)と皆生養護学校(米子市)にも中継で配信され、3会場で計約150人の教職員と保護者が参加した。講師を務めた県立総

合療育センターの汐田まどか副院長は「吸引など直接的ケアだけでなく、呼吸を楽にする姿勢づくりなど医療的配慮を踏まえた普段からの教育的関わりが重要」と強調。あくまで教育を主体に「かかわる人々が共同作業で取り組むことが大切」と述べた。

その上で、重症障害児者の呼吸障害と消化器官障害の関わりや症状、安定呼吸のための姿勢管理や体位変換などを解説した。

参加した鳥取養護学校小学部の安本理恵教諭は「子どもが楽な状態で教育を受けられるよう一層取り組み、看護師、教員がしっかりと連携していきたい」と話した。